

仏教伝来

平成25年2月14日

昭和40年電子工学科卒

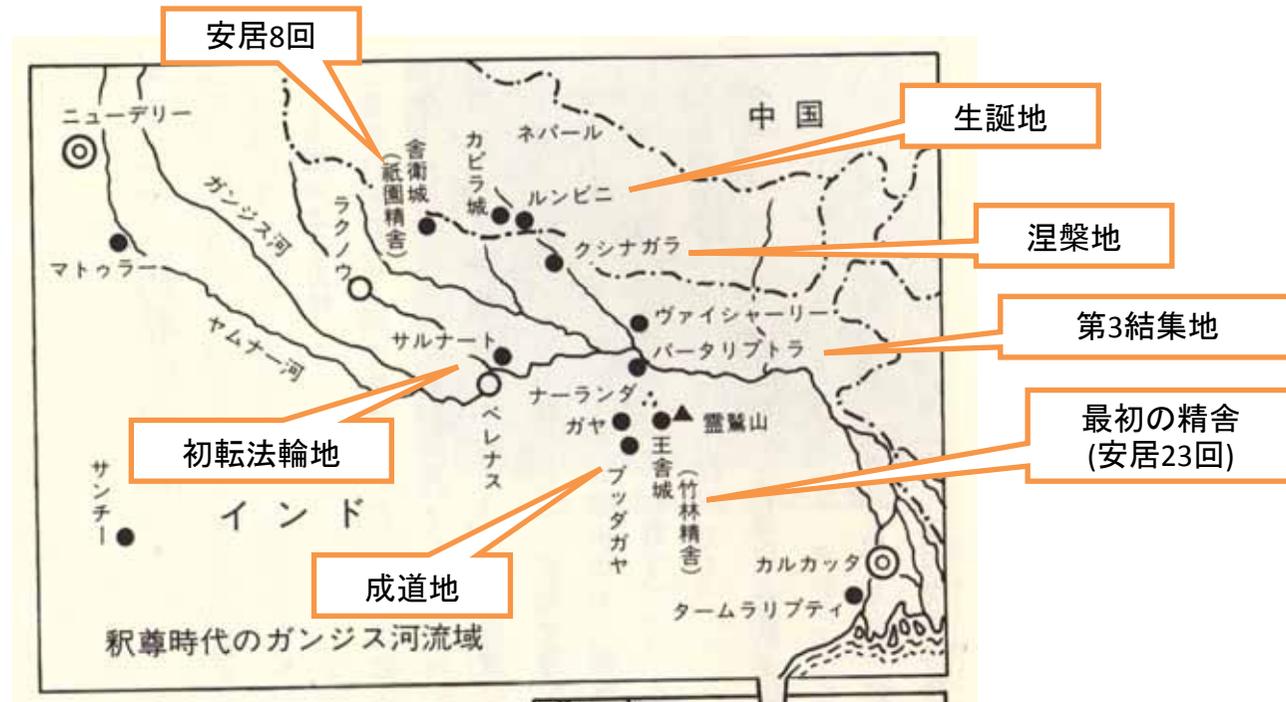
村木 勝司

プロフィール

- 1943年大阪市に生れる。
- 1965年工大卒業・松下電器に入社
- 機器組込カスタムトランス・電源を設計
- 電子レンジ用H種高圧トランスでUL認可
- PPC・FAX・携帯電話用SW電源設計・製造
- トランス工場長・電源工場長・品質保証部長
- 退職後プレス部品製造会社の品質保証担当理事
- 2010年退職
- 1983年創価学会入会・現在地区部長担当

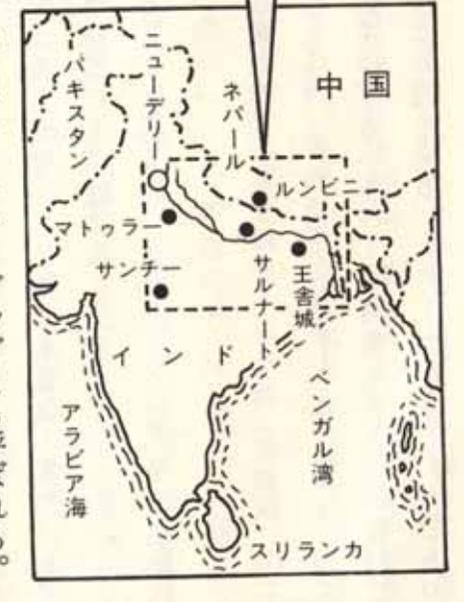
仏教の誕生

- 釈尊の誕生年は諸説。日本ではBC463年説。(仏暦元年は釈尊入滅年、BC383年、末法思想ではBC949年)
- 35歳で悟りを開く。80歳で涅槃。
- 「仏教が誕生」は正しくなく、真理に目覚める。
- 釈尊は形而上学的でなく実践的な問答のみ
- 釈尊は葬儀儀礼を無意味と言う。所がバラモン儀礼で父を送った。インド仏教が滅ぶ因にも。
- 精舎は行脚できない雨期の安居として寄進。



釈尊の関係した土地

出典：
 「入門仏教史」山野上純夫著
 朱鷺書房P22



仏教が全インドへ

- 第1結集{結集=唱和するの意}(入滅4ヵ月後)
- 十大弟子の加旃延が西インドに布教
- 第2結集(BC300年頃)律の改案否決、根本分裂
- マウリア王朝3代アショーカ王(BC268-233)仏教に帰依。インド各地に石柱や磨崖を建て碑文刻む。ルンビニの石柱碑文で釈尊の实在認められる。
- アショーカ王、スリランカ王の特使を受け王子・王女を派遣し仏教信仰を勧める。
- インドが統一国家であったのは2度しかない。アショーカ王の時とイギリスのヴィクトリア女王の時である(インドの多様さを示す言葉)

アレキサンダー
大王遠征

アショーカ王時代の マウリヤ王朝

チャンドラグプタ
拳兵(初代)



対外的な海外進出

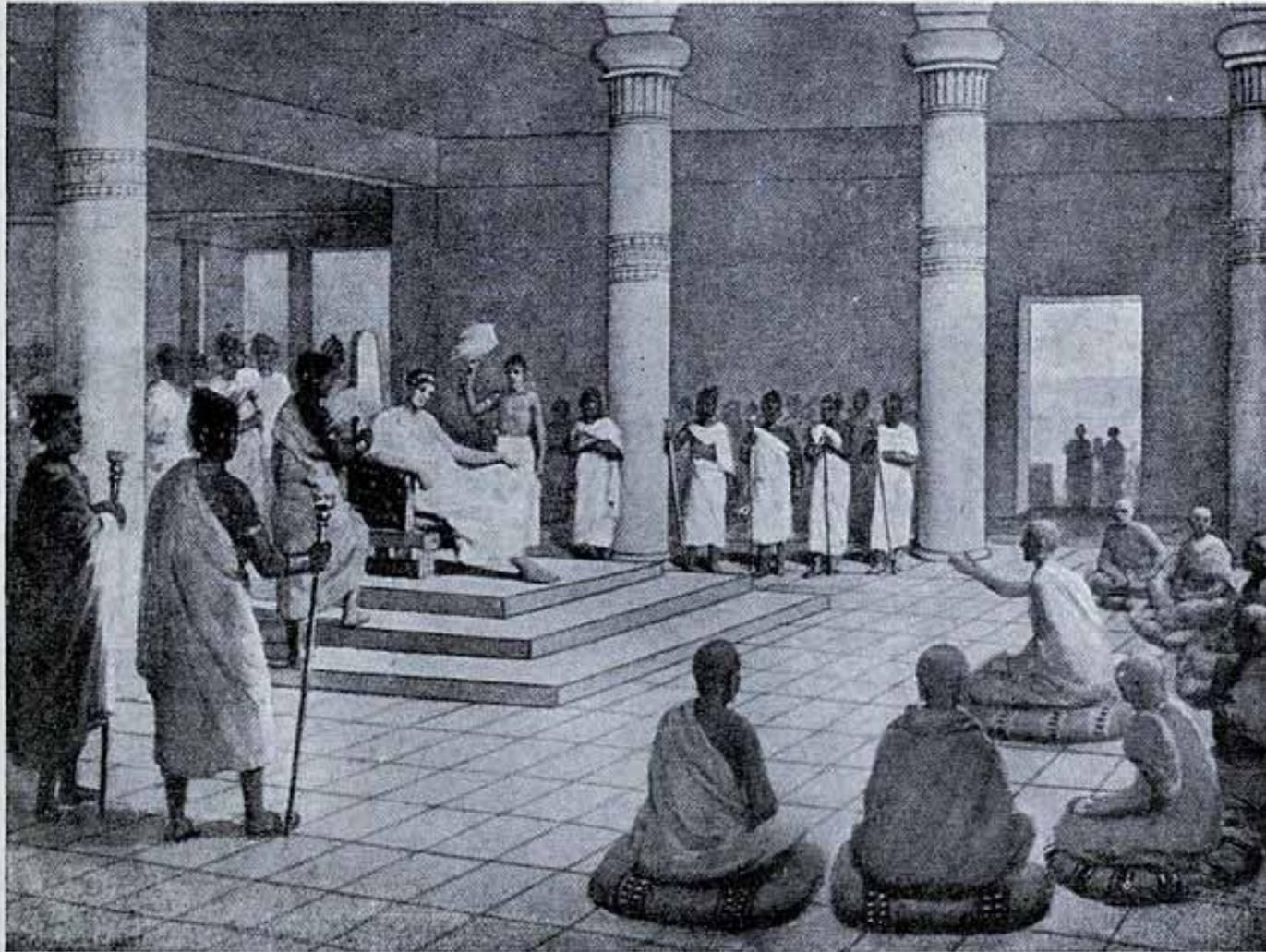
マガダ国の発展を受け
継いだマウリヤ朝。第
3代のアショーカ王は
カリンガ国を征服して
全インドを統一した。

出典：
イラストでわかる「やさしい仏教」
成美堂出版P72

東西文明の対話

- BC160年頃インド西北部グreek王朝8代ミリンダ王(ギリシャ人)がナーガセーナ比丘に仏教問答。(弥蘭陀王問経、那先比丘経)
- 「西洋的論理」と「東洋的英知」の興味深い対話。東西文明が出あい、互いに触発しあった。
- キリストの12使徒は各地の政治権力から迫害されながら布教、仏教徒は為政者の多くから庇護を受けながら伝教。

出典 : Wikipedia; http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:King_Milinda_ask_questions.jpg



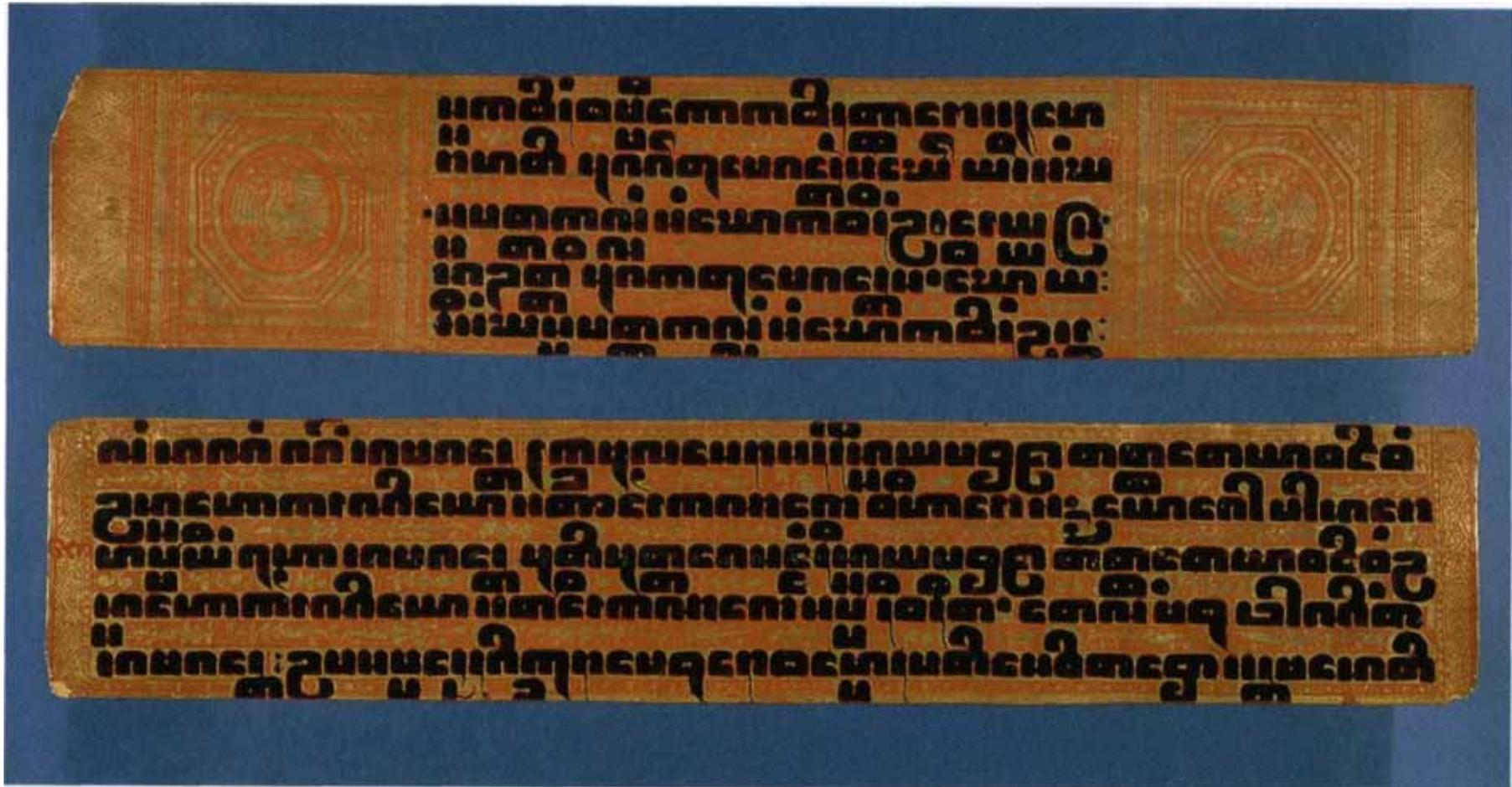
Painted specially for this work.]

KING MILINDA ASKS QUESTIONS, 140 B.C.

After the deaths of Seleukos Nikator and Asoka, the great empires they controlled broke up, and on the north-western frontiers of India beyond the Indus the country (Baktria and Parthia) came to be held by rulers of Greek descent. Conspicuous amongst these was Menander of Kabul, who penetrated far into Northern India and created a capital at Sagala (Sialkot in the Panjab). He had strong leanings towards Buddhism, and his religious disputations with the great teacher Nagasena have been preserved in a famous classic, the *Milindapanha*, the Questions of Milinda (Menander).

教えの文字化

- 第3結集 {=唱和の意} (BC200年頃、上座部のみ参加)で初めて経典が文字化。
- 言語は釈尊が話したマガダ語(現パーリ語)。(原始経典と呼ぶ)スリランカに伝えられ、以降南伝仏教として現在も使用されている。
- 現存するパーリ経典：
 - 経集(スッタ・ニパータ)：72の短詩からなる最古の経典
 - 法句経(ダンマパダ)：423の短い韻文詩からなる仏教詩集
 - 本生譚(ジャータカ)：仏陀の前世話、547話あり。



出典：東洋哲学研究所; <http://www.totetu.org/index.php?id=418>

7. Ms. Ind. VII, 42.

Pali manuscript of the *Kammavācā*, beginning of the text: ff. 1b–2a.

7. Ms. Ind. VII, 42. パーリ文『羯磨作法』写本, 12葉. フォリオ・サイズ: 54.5×10 cm. 5行本. 17–18世紀の書写. パーリ・スクエア体 (square Pali). 貝葉に樹脂を塗布, ポーティ. 写真は本文冒頭. ff. 1b–2a.

パーリ語：文字順；左から右

材質：貝葉

内容：羯磨作法

仏教伝来

東西文明の融合

- 当初仏陀は菩提樹・法輪・仏足跡・台座などで象徴的に表された。
- クシャーナ朝時代にガンダーラ美術が栄え、人間の形をした仏像がギリシャ彫刻と融合し作成された。
- 同時期にマトゥーラ美術としても仏像を作られている。様式はヒンドゥー的様式。直接的関連性はない。ただクシャーナ朝の2大根拠地。



タキシラ

マトゥーラ

クシャーナ朝の最大版図

出典: <http://wadaphoto.jp/kikou/paki4.htm>



ジョーリアン出土仏陀像

タキシラ美術館

タキシラ美術館の西洋風頭



出典: <http://wadaphoto.jp/kikou/paki4.htm>

仏教伝来



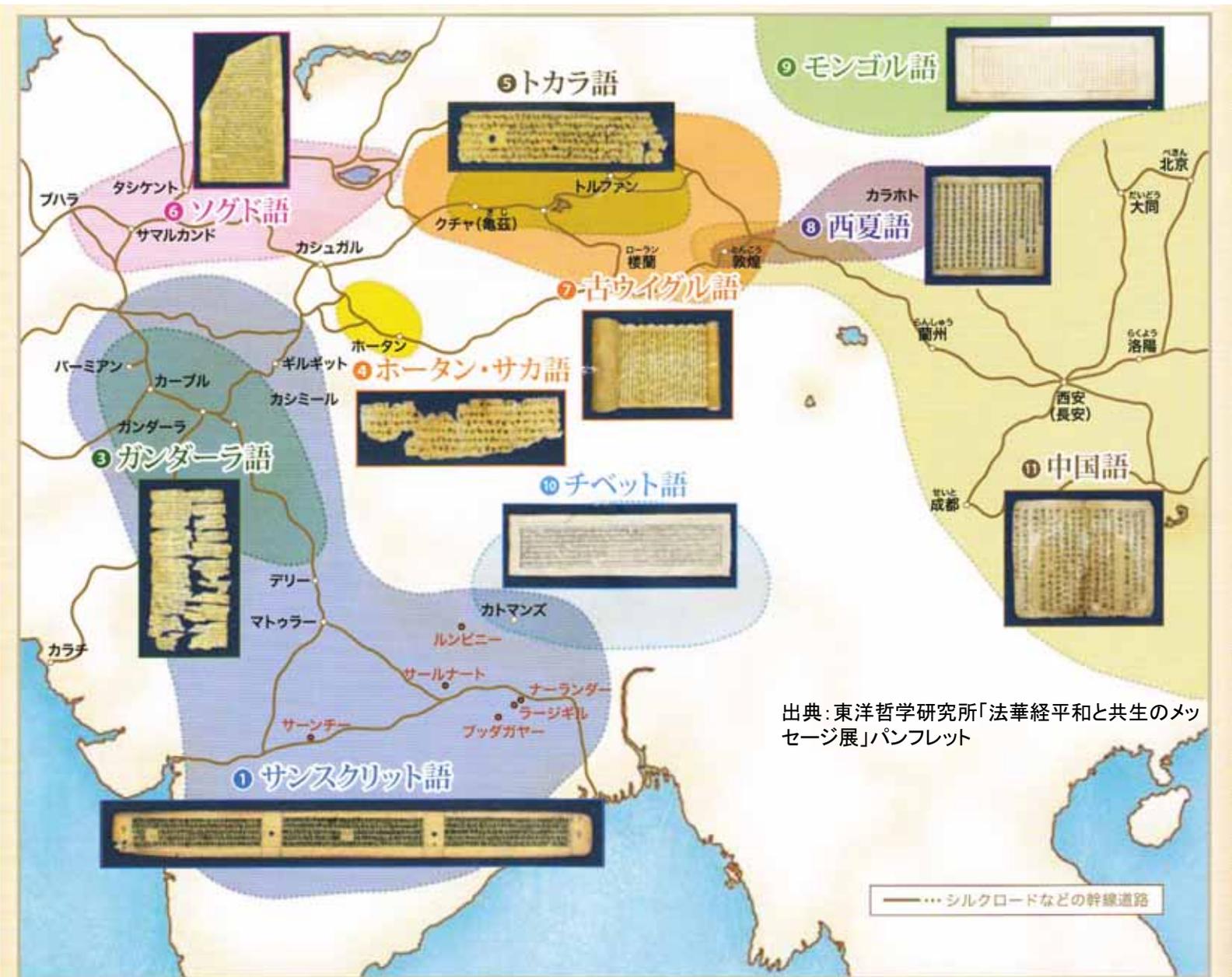
マトゥーラ美術館

出典: マトゥーラ考古学博物館

<http://www.lcv.ne.jp/~riverfld/site206/matura.html>

インドから西域へ

- AD前後、在家中心に「利他行」の原点を追求(大乘化運動)。多くの経典と仏・菩薩誕生。
- 第4結集(AD2世紀)クシャン王朝3代カニシカ王の援助、インド北部カシミールで。
経・律・論の三蔵の解釈論を編纂
- カシミールで仏教が盛んになり北伝の機縁
- 仏教が伝搬するにつれて各国の言語に翻訳された経典が作成された



出典：東洋哲学研究所「法華経平和と共生のメッセージ展」パンフレット

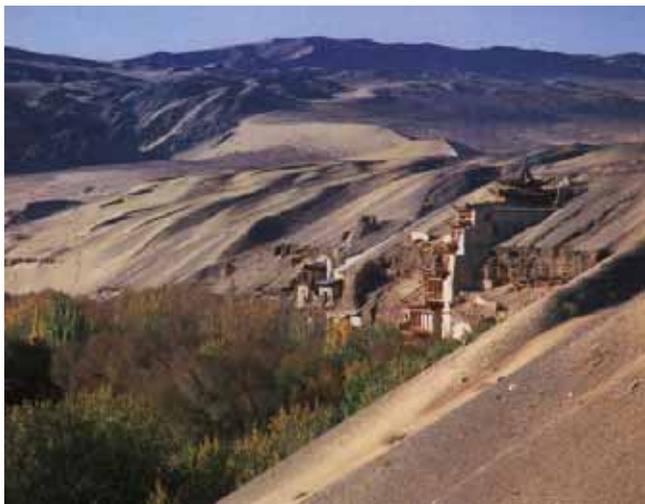
シルクロードは「法華経伝来の道」
仏教伝来

インドの仏教の哲学者

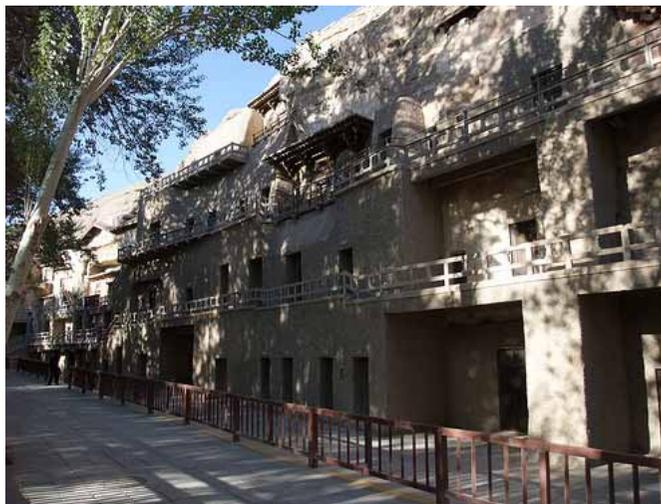
- 第1結集
十大弟子、迦葉(マハカーパシヤ)阿難(アーナンダ)優波離(ウパーリ)
- 第2結集
ヤシャス(保守派=上座部)とヴァツジブッタカ(改革派=大衆部)
- 第3結集
モツガリプッタ(上座部高僧)
- 第4結集以降
竜樹(ナーガルジュナ) (中観派)
無着(アサンガ)・世親(ヴァスバンドウ)兄弟(唯識派)

西域から中国へ①

- BC138年前漢武帝西域へ将軍を派遣、その後タクラマカン砂漠を横断する交易路できる(シルクロード)
- AD67年インド僧竺法蘭・迦葉摩騰が洛陽に寺院建立
- シルクロードに沿ってキジル千仏洞(AD300-)、ベゼクリタ千仏洞、敦煌莫高窟(AD355-)、炳靈寺石窟(AD420-)、雲崗石窟(AD460-)、龍門石窟(AD494-)が構築される
- パルティア(安息国:イラン)の王子安世高AD148-170 (活動期)が中国で小乗仏典の漢訳をし、体系づける。(34部40巻)
- 月氏(クシャーナ朝)出身支婁迦讖AD164-186(活動期)が大乗仏典を漢訳。(13部27巻)
- 中央アジア出身の翻訳者は37人の名前が知られている。



出典: <http://blogs.yahoo.co.jp/sakurai4391/30291509.html>



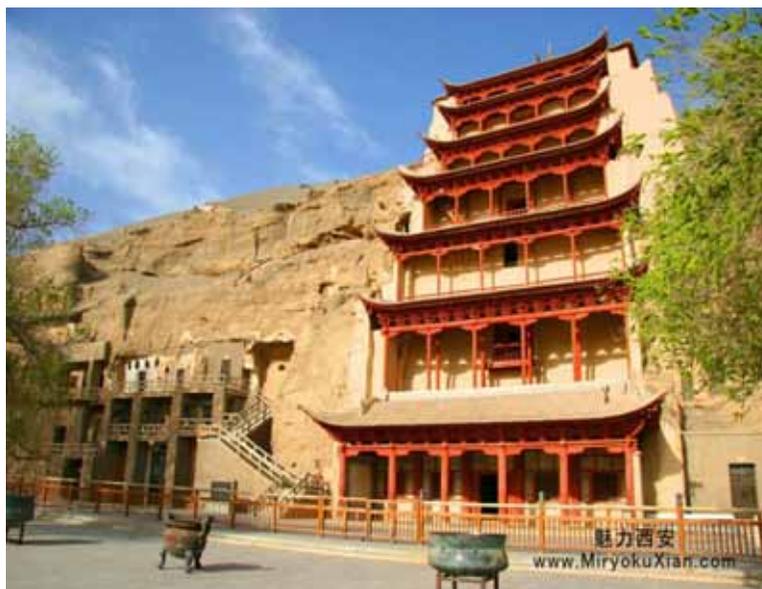
出典: http://www.cazoo.jp/blog/archives/2010/10/post_1977.html



出典: NHK取材班の「シルクロード第2巻」敦煌より



七尊像 45窟西壁龕 出典:
<http://avantdoublier.blogspot.jp/2012/11/blog-post.html>



出典: <http://www.miryokuxian.com/wallpaper.asp>



275窟・交脚弥勒菩薩 出典:
<http://www7a.biglobe.ne.jp/~xx20/275koukyakumiroku.jpg>

莫高窟は南北1.6km
現存石窟は492窟
4世紀から14世紀まで
の約1,000年造り続け
られた

敦煌莫高窟

北の大仏殿

仏教伝来

中国に最初に伝えたインド僧

- 竺法蘭：中国に初めて仏教を伝えたといわれる伝説上の僧。インドの人で、後漢の明帝の頃、西域から招かれて洛陽に至ったという。
- 迦葉摩騰：《(梵)Kāśyapamātaṅga》インドの仏僧。竺法蘭(じくほうらん)とともに、中国に初めて仏教をもたらし、67年、洛陽の白馬寺に住し、四十二章経を訳したと伝えられる。生没年未詳。

西域から中国へ②

- 鳩摩羅什(344-413)亀茲国出身。384年後涼の捕虜となり武威で401年まで漢語を研鑽。長安で35部294巻を翻訳。羅什以前を古訳、以降玄奘までを旧訳、玄奘以降を新訳と言う
- 当初中国では仏教は儒教・道教と相容れず受け入れられなかった。非漢民族の五胡十六国時代から受け入れられ始め、更に中国国内で偽経(盂蘭盆経・父母恩重経など)が創作され批判を打消していった。

中国からインドへの求法

- 中国人で最初に西域へ経典を得に行ったのは朱士行。260年西安から于闐(ホータン市)に行き、「二万五千頌般若経」を入手。
- 法顕は399年60歳代で律蔵を得るためにインドへ。途中鳩摩羅什の居る武威を通らず(治安不安の為)。難行の末インドで3年、帰りは海路。合計14年。その内容は「仏国記」(別名:法顕伝)に表す。
- 玄奘(602-664)は629年長安出発。11年インド中を研学。645年長安に。仏像8体、657部持帰る。訳経は76部1347巻。「大唐西域記」を表す。



げんじょう
玄奘

実際は馬に乗り
従者を引き連れ
ていた。



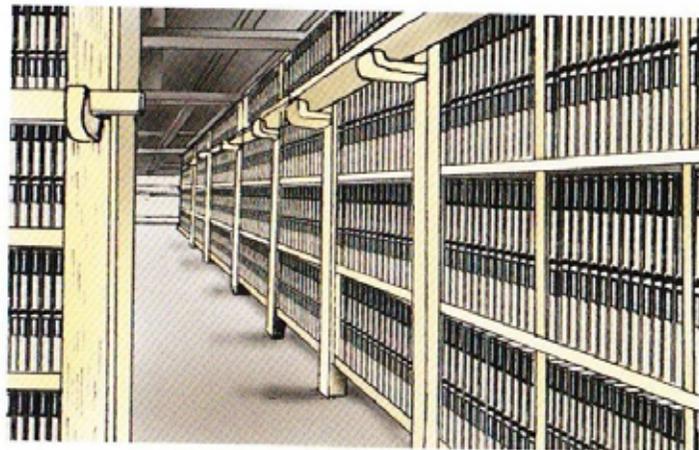
出典：イラストでわかる「やさしい仏教」
成美堂出版P95,109

韓国から日本へ

- 仏教公伝：国家間の公式な交渉として仏教が伝えられたこと。
- 公伝以前、渡来人氏族が私的信仰として仏教をもたらし、信仰していた。
- 538年百済の聖明王から欽明天皇に仏教を先進文化として伝える。
- その後崇仏論争が起こり、崇仏派の蘇我馬子が587年に物部守屋を滅亡し決着。



『高麗版大蔵経』 海印寺の版木



海印寺は韓国南東部の慶尚南道にある。

出典：イラストでわかる「やさしい仏教」
成美堂出版P100,101,116,117

日本初の大伽藍、飛鳥寺

飛鳥寺は五重塔を三つの金堂が囲む大伽藍だった。この伽藍配置は高句麗の影響と見られている。建設にあたっては、朝鮮半島から多くの寺工、瓦職人が来日した。寺院の建設は、当時の先端技術の輸入でもあった。

伽藍とは僧侶のことで、僧侶達が修行し、寝食するところをいう。

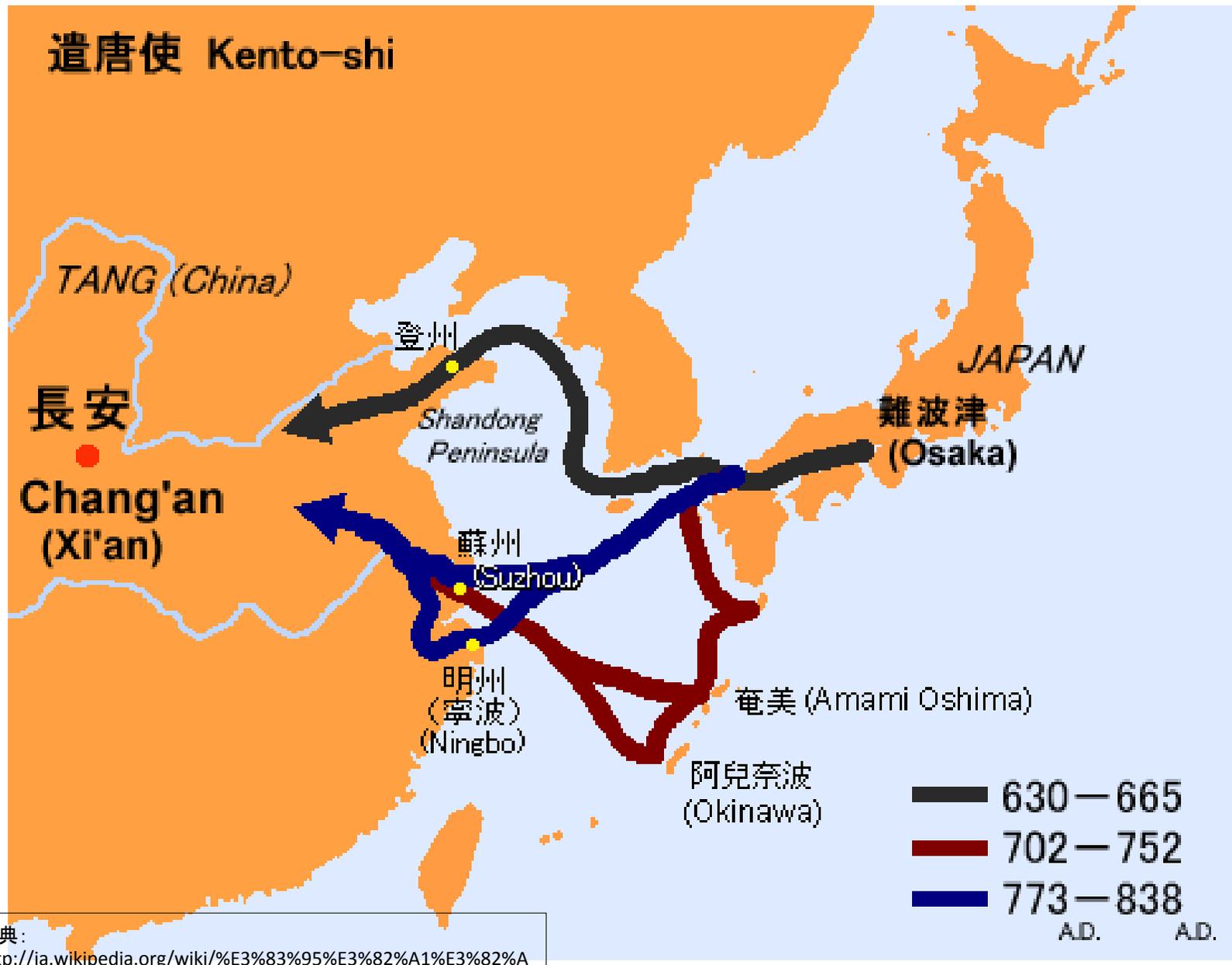
五重塔 金堂

仏教伝来

中国から日本へ①

- 遣隋使(600-615)・遣唐使(630-894)を通じて直接中国から仏教を学ぶ。
- 753年鑑真(687-763)来日(6度目,10年目)。戒師の資格を持つ鑑真が授戒した者を日本で初めて正式の僧侶と確定できた。
- 最澄(767-822)と空海(774-835)が804年入唐。最澄は天台山で経典を書写。翌年帰国。空海は青竜寺で密教第7祖恵果和尚から奥義を伝授。20年の留学期間を待たず806年帰国。

遣唐使 Kento-shi



出典:
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Kentoshi_route.png

仏教伝来

中国から日本へ②

- 末法に入る1052年前後から阿弥陀仏にすがる浄土教信仰が源信・良忍により庶民に広がる。
- 法然(1133-1212)が数多くある大蔵経から浄土三部経だけを選び(専修・選択)浄土宗を開く。仏教史上初の自分が必要とする経典を選び学べば良いと考えた。以降鎌倉仏教として各宗が誕生。
- 道元(1200-1253)は禅だけを専修し曹洞宗を開く。
- 日蓮(1222-1282)は法華経を専修し日蓮宗を開く。
- 禅を学ぶ僧だけが入宋、他の開祖は中国に行かず。